

(12)	<i>Caretis acuta</i> , Moore.	カサシムシ	稀	山
13	<i>Amblypodia japonica</i> , Murray.	ハリタテハ	稀	山
14	<i>Thecla frivaldszkvi</i> , Ledl.	コシバメ	多	山
15	<i>Polymnatus phleas</i> , L.	シロシムシ	稀	山野少
16	<i>Lycena argiades</i> , Pall.	シバメシムシ	最多	山野少
17	L. <i>argia</i> , Mén.	ヤマトシムシ	最多	山野少
18	L. <i>argiolus</i> , L.	シムシタテ	稀	山
19	<i>Filythen lepita</i> , Moore?	テングテフ	稍多	山
(20)	<i>Nephis aceris</i> , Lep.	ミスジテフ	稀	山
21	<i>Vanessa canrena</i> , L.	春生オホハヤバ	稍多	山野
22	V. <i>callirhoe</i> , Fab.	アカタテハ	稍多	山野少
23	V. <i>cardui</i> , L.	シメアカタテハ	稀	山野
24	V. <i>charonia</i> , Dry.	ハリタテハ	稍多	山
25	V. <i>xanthomelas</i> , Schiff.	シロシムシ	最多	山野少
(26)	<i>Ypthima baldus</i> , Fal.	シメシヤノメ	稀	山野
(27)	<i>Neope ganschkevitchii</i> , Mén.	キタタテフ	稀	山野
28	<i>Nisoniades monianus</i> , Brem.	チャマダラセハリ	最多	山

くさくさ (Cladocoryne Sp.)

稻葉昌丸

本年一月中余が相州三崎近傍に於て採集せしハイドロメ  
 ズーサ類 (Hydromedusae) 諸種の中にクラドコリチ属の  
 もの一種あり、この種は稍珍奇なるものなれば其大畧を  
 左に記述すべし。  
 余が知れる所よてハ從來クラドコリチに屬すと知られた

るもの僅かに二種あるのみなり、而して之を發見せし場所も僅かに二三ヶ所に止まれり。第一種を *C. floccosa* と稱す、之は Botch 氏が英佛兩國間に介せる Guernsey 島近傍に於て始めて採集せしものにして其報文の一千八百七十一年三月刊行の *Annals and Magazine of Natural History* に在り。Allman 氏の大著 (*A Monograph of the Gymnoblactic Hydroids*, 1872) より此一屬を收むるが爲と特と新たに *Cladocorynidae* なる一科を設けたり、又 ロッチ 氏の標品より作りたる畧圖を添へたり、然れどもこの標品の當時生殖器を有せず此種の生殖法が果して水母形によるか又の種子嚢形によるか未詳ありし。此有性の標品を始めて稍精密に記述したるは de Pléssis 氏なり。伊太利チープリス近傍に於ては *C. floccosa* の甚だ稀なるものも非ざると見へ氏が一千八百八十九年の冬チープリス實驗所滞在中既之を採集し、翌年六月に至りて始めて生殖器と有せるものを得て此種の生殖法が種子嚢形によるものあることを確定したり、氏の此動物の造構を外観上及び組織上に研究し其報文を *Mittheil. aus der Zool. Station zu Neapel*: 1881 に載せたり、但し氏の得たる生殖機の數甚だ尠なりし故に其造構の記述の充分に精確ならざりしなり。Humann 氏も *Jenaische Zeitschrift* (1882) に載せたる論文中 *Hydranth* の造構を就き少し計り述べたり。而れども種子嚢の造構及び生殖細胞の起因を就きての最も審かき載せし Weismann 氏の有名なる大著 *Die Entstehung der Sexualzellen bei den Hydromedusen* (1883) に在り。

第二の種は *C. pelagica* と稱す、此種の海藻サラガッサム (*Saragassum*) に固着して大西洋の大灣流 (*Gulf Stream*) に漂ひ居りしものなり、Allman 氏の報文の *Journal of the Linnean Society* (1876) に在りと云ふ、未だ見るを得ず。余の得たる種の相州三崎の東毘沙門の入江にて二尋計りの底より繁茂せるホンダハラの末梢に附着し水面より一二尺の所を漂ひしものあり、又三崎の西諸磯灣の入口三尋計りの砂底よりも dredge にて得たり、此時も同じくホンダハラにて其根部を固着せり。されば此種の三尋より水面までの間に確かに繁殖し得るものあり。 *C. floccosa*

の二尋より十五尋までの深さに入りと云ふ。

クラドコリチの往時樹狀動物(Zoophyte)と稱せしもの、一よして珊瑚など、同じく枝條を有し他物も固着せる結合體なり。其ホンダハラに附着せる様の恰かも一枝の海棠花を見るが如し、海棠の葉も相當するもの、ホンダハラの黄緑色の葉(Front)なり花に相當するもの、動物結合體をなせる一々の淡紅色を帯べるHydranthなり、然し此比較の單に着色上のみのもとして一々のHydranthの決して海棠花の如く大なるに非ず。結合體の往々大なる形となりホンダハラ軸を圍んで其長さ十乃至十五セメに達するとあり

結合體が海藻に固着する部のHydrantha(根部)と稱するものよして、其幅半ミメ許りの微細の絲より成れり、數多の絲が不整な匍匐卷曲し、枝を出して相互に結合して微細の網狀を成し以て海藻も固着せり、此網狀の根部が結合體の土臺となるあり。

匍匐根の所々は大抵三ミメより五ミメの間隙を措て根絲と直角の方向よ立てる數多の軸あり、是れ所謂 Hydr-

caulus(軸部)よしてこの軸の先端は一箇のHydranth其坐を占むるなり。

土臺の網の目特に微細なる所よてHydranth非常な津山群集して軸部も根部も蔽れて見るべからず。軸の幅の根絲と同じく半ミメ計り其長さの一定せず通常は三五乃至六ミメあり、軸の稀な枝を出せるとあれども大抵の簡單なるを常とす。軸の基部を回り五六箇相重りたる輪狀の凹みありて甚だ明瞭なり。根部軸部共に堅固なるキチン質の被膜(Perisarc)よて被られ其色黄褐色なり。

結合體中最も肝要なるHydranthなり、一々のHydranthの一疋のハイドラは比すべきものよして結合體が食を得るの此處よりするなり、消化も此所に行はるなり、生殖細胞も此所よ生ずるなり。故にHydranthの口孔を有し、數多のテナタクル(觸角)を有し、有性生殖を爲す時節(余の獲たるものよては十二月より一月へ掛けて)より數多の種子囊(Sporosacs)を擔へり。

Hydranthの形の先端窄く下端廣く窄き端に口孔を開き恰かも爛徳利の如し又棍棒にも比すべし、之よりて屬

名の一半 Coryne (= a club 棍棒の義) の稱來れるなり。長さの最も大なるものにて二ミメ小なるもの一ミメも足らず、幅の下部廣さ所にて最大一ミメ最小半ミメなり、尤も之のアルコホル漬標品にて測りしものとして生活せるときは伸縮自在にして大き一定せず。窄き上端は不透明白色、廣き下端は淡紅色を帶ぶ。口孔充分に開ける時は圓形なり、閉つる時の殆んど其痕をさまで至り周圍の内壁は變をなして縮まる。

體腔の窄き口孔は始まり夫より漸々下方に濶がり次々稍々急な窄まり遂に Hydranth 體の下端に達す、此所より非常に細き溝通して軸部に入り夫より根部に通ず。故に全結合體中總ての Hydranth の體腔は軸及び根部の細溝によりて皆悉く相通し居れり、之によりて一正の Hydranth が食を捕ふれば其養分の全結合體を廻る勘定なり。

テナタクルに二種あり、口の周圍に在るものと體の他部分にあるものとなり、此等の皆列を成し輪狀に列べり。口の周圍にあるもの一輪列をなす、其數の五を常とすれども四、六のものも少なからず。一一の口縁テナタクルの

其長さ下列のものに比して甚だ短かく、其形の體操に用ゐる球竿の一半の如く終端は小球あり、軸の基部は太く、端の細し。小球の表面は數多刺細胞放線狀に列す、之は觸るゝものあるときは刺突出す、敵を斃すの具なり。

口部より下りて徳利形の濶がりたる所にあるテナタクルは最も奇異なるものなり、此等は口縁のもの組織上大なる相異なるにあらざれども唯其形が異なるなり。テナタクルの軸は甚だ長く、其基部は太く、終端は細し。この軸に數多の小枝あり、枝は兩々相對し(稀に互ひ違ひのとあり)軸の兩側に並び其方向は體の長軸とテナタクル軸とを過る平面に直角なり、其數は軸の長さに応じて三對より六對なり又軸の上面は往々無對の小枝あり、軸の終端に必ずこの無對小枝ありて兩側の小枝と共に三ツ又を成す。毎小枝の形は口縁テナタクルに同じ但し甚だ小なり。

此等枝を有するテナタクルは實に全ハイドロメツトサ類中獨歩と云ふべくクラドコリス特有のものなり、屬名の一半 Clados (= a branch 枝の義) は此形狀を指示せるな

り。  
有枝テナタクルは大抵四輪列を成し一輪列に五箇宛あり、然し此數は固定のものに非ず或る輪列には三又は四のみのとあり、又六のともあり。長さの粗、同様あれども下列ほど長さ様覺ゆ。

總じてテナタクルの互ひ違ひに列するものにして、無枝テナタクルと有枝第二列第四列のテナタクルは一直線にあり、又有枝第一列第三列も同じ直線の上に位す。

次に生殖機を述べんにシラドコリチは雌雄群を異よせり。採集中の不注意により余の携へ歸りたるものは皆雄結合體なりし、故に已下述ぶる所は専ら雄群にのみに就て云ふあり。生殖細胞を藏せる種子嚢は球形にして少しく長手なり、極めて短かく細き軸によりて有枝テナタクルの根元上面にて Hydranth 體に附着す。其數は大抵五六顆多きときは十三箇もあるとあり。大抵の一テナタクルに一顆の割合なれども數多きときは一所に二顆並べるとあり。最下列のテナタクルに附着せるとは甚だ稀なり。

*C. Hoccosa* よて種子嚢の生ずるテナタクルの基部をあらせして四箇の有枝テナタクルの中央に位すと云ふ、又同種にてはテナタクルが大に退化して殆んど消失し之より所謂 *Blastostyle* を成す由 *du Plessis* 氏記せり、然し *Weismann* 氏の指示によればこの事は雌性のものに多くして雄性のものに甚だ少しと云ふ。余も *Blastostyle* あるものを得んとて餘程探せしなれども見當らず、僅か一箇其物からんかと思へる、ものを得たれども之よても甚だ短かきながら枝を有せるテナタクルを認め得らるべし。

已上結合體の外形大畧によりて見るに余の得たるもの *C. Hoccosa* に非るとは明なり。*C. pelagica* に大ひよ類似する所あるが如し *du Plessis* 氏の記述に従へば *C. pelagica* と *C. Hoccosa* より小よして、軸の基部は明瞭なる輪狀の凹みあり、生殖種子嚢のテナタクルの根元上下に附着し其數少し、海面住よして大灣流に漂へる海藻 *Sargassum bucciferum* に固着し居りしと云ふ。然れども *Allmann* 氏の報文を見ざる已上は未だ遽かき定め難

し。今 *Alman* 氏流に余の獲たる種の *Diagnose* を作れ

*Cladocoryne* sp.

軸部ハ長サ五みめニ達シ、細ク、枝ナク或ハ稀ニ枝ヲ出  
ス。被膜ペリサ一ノ軸ノ基部ニ於テ判然タル輪狀ノ凹  
ミチ有ス。はゞとらんすハ稍短ク、てんたくる長シ。無枝  
ノてんたくるハ四乃至六箇集リテ一輪列ヲナシ口ノ周圍  
ニアリ。有枝てんたくるハ體ヲ回リテ三四輪列ヲナシ每  
列三乃至五箇ヨリ成ル、毎てんたくるハ數多ノ球附キノ  
小枝ヲ出ス。

生殖器ハ種子囊形ニシテ有枝てんたくるノ根ニ附着セ  
リ。

圖解

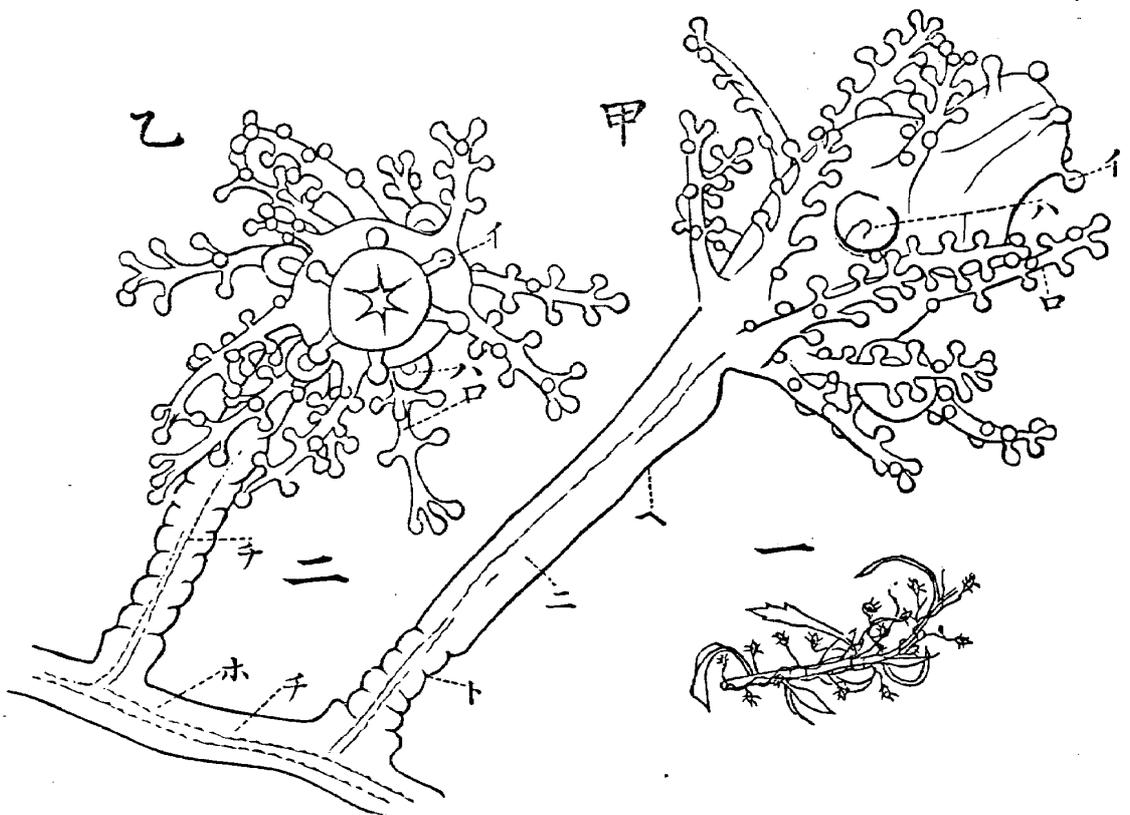
第一圖。動物結合體の小片ホンダハラの葉ニ固着せる  
狀。自然大。

第二圖 二箇の *Pyramida* を擴大して示す。四十倍。

甲ハ側面、五箇の無枝テナタクル(イ)と十一箇の有枝  
テナタクル(ロ)と二箇の種子囊(ハ)見ゆ。

乙ハ上面、口孔半バ開キ壁をなせる内壁見ゆ、六箇の口

くらとこりね



縁テンタクル(イ)と十四箇の有枝テンタクル(ロ)と五箇の種子囊(ハ)を有す。

(ニ)軸部、(ホ)匍匐根部、(ヘ)キチーン被膜、(ト)輪狀凹み、(チ)小溝。

●本邦産ノ雀科 (一七二頁ノ續キ)

フランジゲ

飯島魁

丙、は、じろ亞科(Emberizine.)

二十) *Emberiza ciopsis*, Dp.

は、じろ

此種ハ本邦中到ル所ニ産ス、亞細亞大陸ニハ産セズ、雄ニテハ眉及ビ頬ハ白ク、眼先キ及ビ耳羽ハ黒シ、雌ニテハ眉及ビ頬ハ黄色ヲ帯ビ分界明カナラズ、耳羽ハ暗褐色ナリ、雌雄トモニ胸ハ赤茶色ニシテ黒キ班紋ナキヲ以テ近似ノ種ト識別スルヲ得

二十一) *Emberiza fucata*, Pall.

は、わか

は、わかハ前種ノ如クニ普通ナラズ但シ北海道ニハ稀ナラズト云フ、此種ハ東まべりわ、支那ノ中央部及ビ東部、ひまらや等ニモ産シ冬ノ間南支那、印度、びるま等ニ渡リ

歐洲へハ只稀ニ渡リ行コアリト云フ、雌雄トモ耳毛ハ栗茶色ナリ、胸ニ黒キ班線アリ、雄ハ雌ニ比シテ下面黄色ナリ、其他一般ノ色取リハは、じろニ似タリ

二十二) *Emberiza rustica*, Pall.

かしらだか

是ハ前種ニ甚ダ能ク似タル色取リナルガ、胸ノ班紋ハ栗色ニ腹白ケレバ直チニ識別シ得ベシ、此種ハまべりわヨリ歐洲北部ニ掛ケテ分布シ本邦ニテハ夏ハ北海道ニ多ク冬ハ本州ノ南部ニ見ルト云フ

二十三) *Emberiza elegans*, Temm.

みやまは、じろ

此種ハ本邦及ビ東まべりわニ産シ冬、支那ニ渡ル本邦ニテハ南部ニ多シト云フ又日光ニモ産スル由、喉及ビ頂ハ黄色、黒キ冠羽アリ、頬、耳羽及ビ胸ハ黒シ喉ノ黄ト胸ノ黒トノ間ハ白シ、雌ハ雄ヨリモ色取リ一般ニ鈍ク頂ノ黄部判然ナラズ而シテ頬羽ハ赤茶ヲ帯ビ胸ニ黒部ナシ、みやまは、じろハ本邦ニ産スルは、じろ科中ニテ最モ美麗ナルモノニシテ人好デ籠鳥トナス

二十四) *Emberiza personata*, Pall.

わをじ

頭及ビ頸ハ橄欖綠色、下面ハ一樣ニ黄色ニシテ黒斑アリ、